

図画工作－２（第４学年） 話し合いを行うことで発想や構想を深める事例
【学習活動の概要】

1 題材名 白い石		
2 題材の目標 白い石の造形的な特徴や、自然の材料、場所の様子などを基に、新しい形を発想したり、みんなで話し合ってよさや面白さを考えたりしながら、造形的な活動を行う。		
3 評価規準 【造形への関心・意欲・態度】校庭に白い石を並べたり、木の枝をつないだりする活動に取り組み、よさや面白さを自分の思いで楽しもうとしている。 【発想や構想の能力】校庭に白い石を並べたり、木の枝をつないだりしながら、造形的な活動を考えている。 【創造的な技能】場所の様子や特徴を生かすような並べ方や組合せ方などを工夫している。 【鑑賞の能力】自分の気持ちを話したり、友人と話し合ったりしながら、組合せの感じ、場所の様子の違いなどをとらえている。		
4 題材 本題材は、白い石の形や色などの特徴を基に、これを校庭に並べたり、そこに新たな材料を加えたりしながら造形的な活動を行うとともに、そこで生まれたよさや面白さを感じ取る活動である。 児童は、まず白い石に出会い、その感触や形、色などの造形的な特徴をとらえる。次に、白い石に似合う場所を校庭で探し、場所の様子や特徴を考え合わせながら白い石を並べたり、校庭で見つけた木の枝などの自然物を組み合わせたりするなど、グループで造形的な活動を行う。 このとき、デジタルカメラや画用紙によるまとめなど、話し合いが活性化するような手立てを取り入れることによって、一人一人が感じたことを多様な方法で表現したり、話し合っただけでアイデアを発展させたりするなどの言語活動を充実させ、本題材がねらう「発想や構想の能力」、「鑑賞の能力」などを高めようと考えた。		
5 主な学習活動 (1)題材の展開 (90分)		
時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
10分	1. お気に入りの白い石を選ぶ。 ・白い石（ホームセンターなどで売っている庭石）の中から自分の好きな形や色の石を選ぶ。	・児童のつぶやきや対話を手がかりに、児童がそれぞれ根拠をもって石を選べるようにする。
60分	2. 白い石や校庭で見つけた材料などを基に、グループで造形的な活動を行う。 ・校庭のいろいろな場所から活動する場所を選ぶ。 ・白い石に組み合わせるものを拾ったり、白い石を置いてみたりしながら、造形的な活動を行う。 ・デジタルカメラで撮影しながら、形や色などについて話し合う。	・デジタルカメラはグループに一台とし、話し合ったり友人の活動に目を向けたりできるようにする。 ・役割が固定しないように配慮し、一人一人の感じ方が大切にされながら交流が行われるようにする。
20分	3. グループの活動について画用紙にまとめ、教室に掲示する。 ・撮影した写真を画用紙に張り付け、そのまわりに解説を加える形式でまとめる。 ・活動を見ていない人にも自分たちの感じたことや考えが伝わるように工夫する。	・感じたことや考えたことを事実と感想に分けて端的に表すように助言する。 ・話し合いながら画用紙にまとめることで、自分たちの活動のよさや面白さに気付くことができるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領 第3学年及び第4学年において、A表現(1)造形遊び「イ 新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったり考えたりしながらつくること。」とある。

これは、材料や場所などに働きかけ、材料を組み合わせたり、別の材料を加えたりしながら、次々と発想や構想が連続する過程を示している。また、一人一人が思い付いたことを出し合うことで、お互いに発想を刺激し合いながら造形活動を行うことを示している。

本題材では、グループ活動を取り入れ、言語活動と造形活動が相互にかかわり合いながら「発想や構想の能力」、「鑑賞の能力」が高まるようにしている。特に、デジタルカメラや画用紙を取り入れることで話し合いが具体的に展開するように題材を構成している。



【言語活動の充実の工夫】

本題材において、言語活動の充実を通して図画工作科の資質や能力を高める手立ては次の2点である。

(1) デジタルカメラを共有して使うことで友人と語り合いながら活動するようにする。

自分がつくっているものをデジタルカメラで撮影するという行為は、自分たちの生み出した形や色などを確認するという活動である。本題材では、デジタルカメラを、あえて一人一台にせず、グループに一台とする。これによって、お互いに気付いたことが交流し合うようになる。例えば、デジタルカメラの画面を覗き込みながら「もう少し上まで撮るとよい」「形をこう変えた方が面白い」などの話し合いが行われる。また、活動が続くにつれて「石をどのような場所に置いたらよりよい雰囲気になるのか」「どのような材料を持ち込んだら形の面白さが引き立つのか」など、具体的な話し合いが展開することになる。結果として言語的な交流を通して、児童の「発想や構想の能力」が高まることになる。



(2) 画用紙に自分たちの考えや感じたことをまとめ掲示する。

四つ切大の画用紙に自分たちが撮影した写真を張り付け、話し合いながら活動した内容を簡単な言葉で書き加え、これを教室に掲示する。この手立てによって、児童は、自分たちが感じたことや考えたことを〈画用紙という場所〉で再度確認することになる。その際、長い文章を書くのではなく、事実と感想を分けて、端的に自分たちの感じたことをまとめるようにする。例えば右の写真は「暗い所に光が差し込んでいて、きれいでした。水たまりには、校舎や校庭の木がうつっていました。白い石を置いたら、湖に見えてきました」と書かれている。ここから、それぞれの場所で見付けた光や形などを手がかりに、児童が具体的にイメージを膨らませていることが分かる。



デジタルカメラや画用紙などを用いて、具体的にお互いの気づきが交流するような話し合い活動を行うことによって、児童の「発想や構想の能力」、「鑑賞の能力」が高まるように工夫した事例である。